

いただいたご意見と区の方考え方

令和2年度生野区区政会議(第2回くらしの安全・安心部会)

番号	発言者	ご質問等	回答者	回答
1	杉浦委員	<p>地域には、やはり戦前からの長屋があり、独居老人が長く住まれている。住民の方が突然入院され、そのまま自宅に戻って来られない。又、別の方が亡くなられて、その後、そこには誰も住まれないため空き家となる。</p> <p>10軒長屋の場合、3軒の方がそこに生まれ、残り7軒は空き家のままでそこには誰も住まれないという事もなく、残り3軒の方が亡くなるまでは、長屋の建物を壊して新しく建て直すことが出来ず、そのような状態の長屋が多くあるが、地域では何もできない。</p> <p>新しく立て直せば若い世代の人が入ってくるのだが。</p> <p>長屋に残っている人達の転居などが出来れば活性化できると思われる。何とかならないものか。</p>	<p>森地域まちづくり課長</p> <p>井平安心まちづくり担当課長</p>	<p>特定空き家や老朽住宅の対策として、危険等の空き家の情報が入った段階で大阪市空き家等計画に基づきその建物の危険度を判断し、危険な状況になっている空き家について、所有者調査を行い、改善してもらうよう助言や指導を行っています。なお、特定空き家に関しては区役所が担当し、長屋(住まれている)などの老朽危険家屋に関しては都市計画局 建築指導部が担当しております。引き続き、危険な空き家等の解消に取り組めます。</p> <p>また、空き家の増加は、まちの防犯性・防火性の問題だけでなく、コミュニティの衰退やまちの魅力の低下など、地域の課題にもなっていますが、一方で、長屋の空き家を活用したいというニーズもあることから、空き家を課題ではなく魅力として捉え、空き家の利活用促進により、地域活性化にも取り組んでいきたいと考えております。</p>
2	杉浦委員	<p>自助・共助の防災対策の必要を感じ、日頃からの取組活動が重要と感じている割合、90%以上となっているが、とてもそのようには思えない。</p> <p>2016年12月に地区の防災計画は出来たが、それ以降地域での防災訓練が出来ておらず、新しい住民も増え、住民の意識は低くなっている。</p> <p>現在コロナウイルスの問題で動けないが、落ち着けば地域全体の防災訓練を早急の実施し、防災対策への意識を高めていく必要性を感じます。</p>	<p>井平安心まちづくり担当課長</p>	<p>新型コロナがの感染状況をふまえ、各地域の防災訓練や防災出前講座を実施し、住民の防災意識を高めるよう取り組んでいきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。</p>